

# 26P-am08

ケナガエサカキ由来の新規ジテルペン配糖体

○阪井 史歩<sup>1</sup>, 杉本 幸子<sup>1</sup>, 山野 喜<sup>1</sup>, 大塚 英昭<sup>2</sup>, 松浪 勝義<sup>1</sup> (<sup>1</sup>広島大院医歯薬保, <sup>2</sup>安田女大薬)

【目的】沖縄は周囲を海洋で囲まれ独自の生態系を持つことから、我が国における天然資源の宝庫となっている。今回の研究で用いたケナガエサカキ *Adinandrayaeyamensis* はサカキ科ナガエサカキ属の植物で、西表島、石垣島だけに分布する固有種であり、これまで化学的研究はほとんどされていない。今回、我々は沖縄県産未利用植物資源の基礎化学的研究の一環として、同植物葉部の化学成分、特に配糖体成分を中心に研究を行ったので報告する。

【方法・結果】ケナガエサカキの乾燥葉(3.73 kg)をメタノールで抽出し、常法に従って溶媒分配を行い、ブタノール可溶画分(119 g)を得た。本画分を Diaion HP-20、シリカゲル、ODS カラムクロマトグラフィー、さらに DCCC および HPLC (ODS) で分離、精製することにより新規化合物(1-3)を得た。化合物 1, 2 および 3 は、NMR を中心としたスペクトルデータの解析により新規ジテルペン配糖体であると決定した。

